

地域通貨「ロマン」で人をつなぐ。

EW19-1086F 小山将輝

今回調べてきたのは福岡県八女市の「ロマン」である。調べた理由は、名前だ。なかなか聞かないネーミングのため、見た瞬間に飛びついた。「ロマン」が生まれた経緯は市の移住・定住促進事業の一環として作られた。流通年はテスト版が R2 年 9/14 日から。正式リリースが同年 10 月 11 日である。流通方法はアプリ形式。記事と HP を見る限り、この方式以外はないのでアナログ方式は採られていない。

発行元

記載なし。ただ記事の情報から株式会社カヤックが設計元だという記載あり。

運営元

八女市企画部定住対策課町並み景観係

目的及び発信内容

地域内外に“人と人とのつながり”あるいは“人と地域とのつながり”を生み出し、コミュニティ形成や地域産業の発展を進めるため、八女市で流通するまちのコイン「ロマン」に関する情報を発信してきます。

http://www.city.yame.fukuoka.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/5/machinocoinfac_ebookunyouhoushin.pdf

※参照元 1/2 ページ

使用方法

スマホに専用アプリ「まちのコイン」をインストールする事から始まる。参加記念で 500 ロマンがチャージされる。

特徴

・ポイントは現金をチャージするのではなく、ボランティアやアプリの起動、お店の入店時など様々ある。

・ポイントは厳密にはお金ではないため、1円=1 ロマンとはならない。

・ポイントの使用例は様々あり、例えば、菓子作り体験を 800 ロマンで行える、様々なお茶を利き茶出来るなど。

調べた感想

今回のロマンはコミュニケーションツールとしての側面が強い地域通貨のように感じた試みとしては、以前からあったものだがアプリにすることにより、すぐにポイント残高や説明が見えるものになっている。そして記事の中にもあったようにレクリエーションの面が強くなり、今まで一步引いた距離にいた消費者と店をつなぐ架け橋と感じた。しかし、記事の中でも出ていたが、店側もお客様への「ロマン」の説明に不安を感じ、今一步足を踏み出せないでいる店も多い。また、提供できるサービスが思いつかない店もある。そして、デジタル方式の通貨の為、高齢者の方がどうやって利用すればよいのか。これらが今回の記事から読み取れた課題だと感じた。

今回の発表で使用したサイト

記事元

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/661643/>

地域通貨「ロマン」HP

<http://www.city.yame.fukuoka.jp/shisei/9/1598521076914.html>

「まちのコイン」HP

<https://coin.machino.co/about/players>